

卸売市場等でのパレット回収体制構築 に向けた取り組み

ホクレン農業協同組合連合会 管理本部 物流部

2020. 11. 30

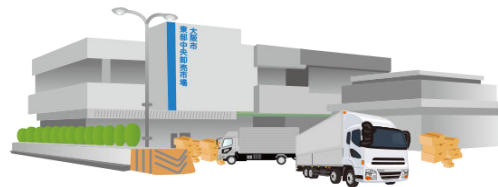
1. パレット回収における課題について

レンタルパレット利用に関する課題



サプライヤー

- 青果市場におけるレンタルパレットの紛失
- レンタルパレットを回収する効率的なトラック手配

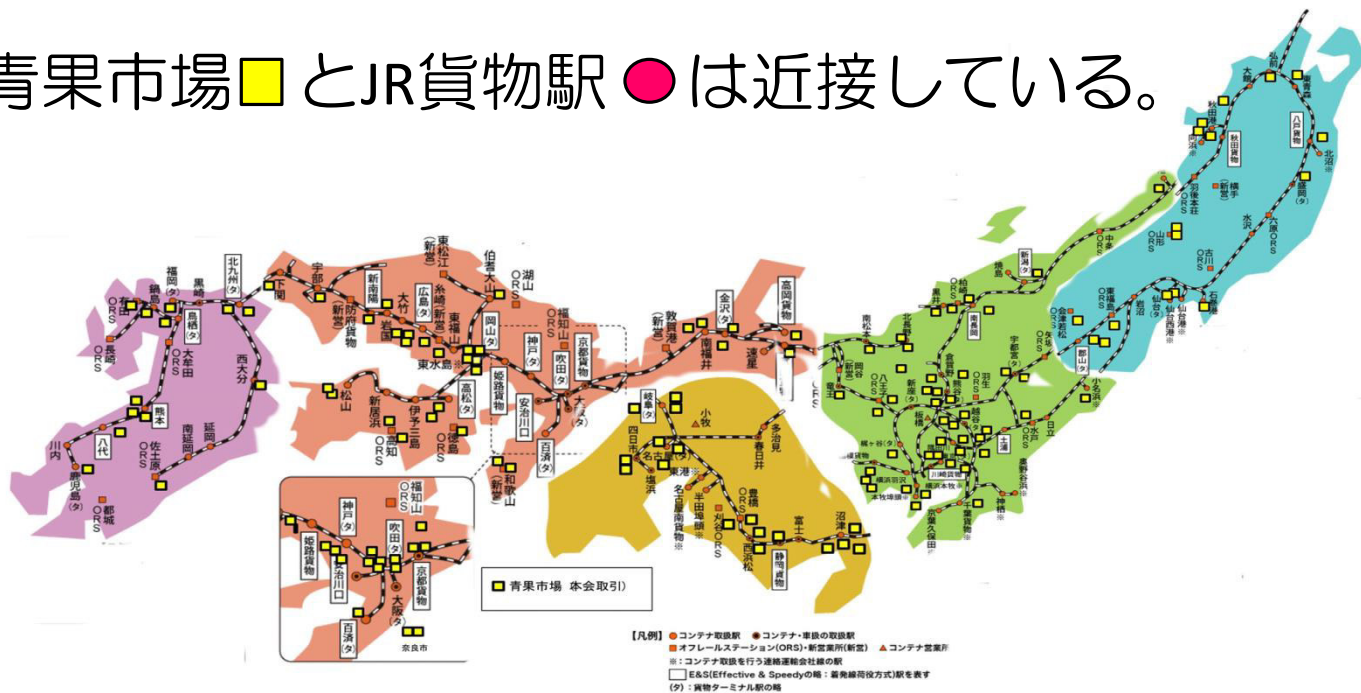


青果市場

- レンタルパレットを保管するスペース不足
- 回収まで、持ち出されないよう管理する労力

1. パレット回収における課題について

青果市場 ■ とJR貨物駅 ● は近接している。



2. パレット回収体制イメージについて

回収体制の概要



pixta.jp - 9063604

貨物駅
通運会社コンテナ基地

(配送)

ほぼ毎日配送がある
～30km圏内の配送が多い
JRコンテナ2個積み車が主流



青果市場

1回の配送時に180枚程度のパレット回収が可能

(期待される効果)

回収頻度が高まり、市場での滞留パレット減少
⇒青果市場のパレット管理負担減少と紛失リスク低減。

回収率向上へ

(期待される効果)

通常空車で回送のため、効率的な車両活用が可能
⇒配送コストの低減化
⇒通運会社の収益性向上

回収体制の安定化および拡大へ
レンタルコストの安定化・低減へ

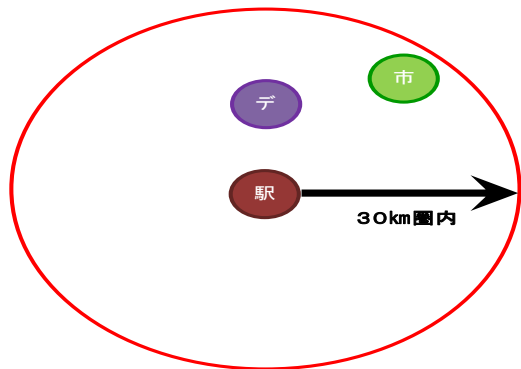


サプライヤーデポ

2. パレット回収体制イメージについて

想定される回収体制

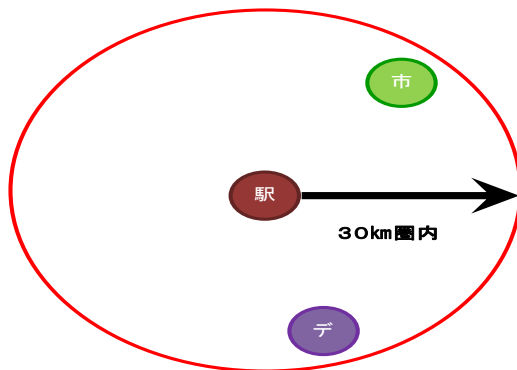
Aパターン



【効率的な位置関係】

非常に効率的な回収体制構築が期待できる。ここである程度余力を蓄え、他条件地区での回収体制構築につなげる必要がある。

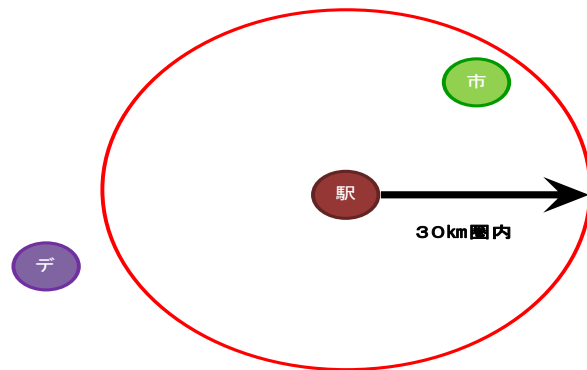
Bパターン



【検証が必要な位置関係】

このような場合でも回収体制が成立できるような仕組みづくりが必要。

Cパターン



【効率的な位置関係とは言い難い状態】

場合によっては、デポの新設(車両基地等のデポ化など)の検討が必要。

全ての青果市場を対象にするにはCパターンのような効率的とは限らない届け先も出てくる可能性が十分想定される。まずはA、Bパターンの青果市場において、サプライヤーの既存回収体制が弱い地区からトライアル輸送を実施し、その中で課題を洗い出していき、課題解決策を協議していく。

3. 今後のすすめ方(案)

・パレット回収体制構築に向けたロードマップは以下のとおり取り進めることとし、第2回会議において本年産のトライアル概要を決定し、第3回会議にて途中検証と令和3年産にむけての方向性を協議する。

時期	取り組み内容
10月26日	キックオフ会議: 方向性・取り進めスケジュール決定
~11月中旬	【各社次回会議(トライアル実施ルート)に向けた作業】 ホクレン: 対象エリア選定に向けた絞り込み作業(担当:) 通運会社: 回収コスト試算およびJR貨物とのコンテナ利用交渉 サプライヤー: 既存回収体制の再検証による強化が必要な回収ルートの洗い出し
11月20日	【第2回会議(東京)】本年産のトライアル対象エリアおよび回収体制の決定
12月~	トライアル開始
1月下旬(予定)	【第3回会議(札幌)】途中検証(課題の洗い出し)と次年産への展開協議
3月中旬	【第4回会議(東京)】課題解決に向けた取り組みについて
※都度、必要に応じ会議実施	
5~6月	第〇回会議 令和3年産の回収体制決定